



論点整理

第二章 質の高い、深い学びを実現し、
分かりやすく使いやすい学習指導要領の在り方 ③

中核的な概念等を活用した一層のデジタル化

論点

告示される学習指導要領は単一の形式とならざるを得ないが、実際に授業づくりを担う一人一人の教師にとって、分かりやすく、使いやすいという観点から、デジタル技術を活用することにより、解説を含めた学習指導要領のユーザビリティ・アクセシビリティの向上について検討する必要がある



検討の方向性

一人一人の教師が以下のようなことができる

「デジタル学習指導要領」の実現に向けて、検討を加速すべき

(所要の概算要求を行う)

- ◆ 教科等間の関係、学年段階や学校種間の記載が容易に俯瞰できる。
- ◆ 学習指導要領コードも活用し、学習指導要領とデジタル教科書・教材をひも付けることにより、相互のアクセス等が一層円滑となる。
- ◆ AI等の活用により、日々の授業づくりに関わる疑問に対するフィードバックを受けたり、指導案のたたき台等の作成が容易になる。

見通しをきちんと立てて、自分で考える

ひとにして遠き慮り無ければ、必ず近き憂い有り。

(訳) もし遠い先まで見通す、深い考えがなかったら、必ず足元から思いがけない災いが起こってしまうものだ。

出典：「壁を乗り越える論語塾」安岡定子著（PHP研究所）